訓練 **弟子たち**

会期 **11:サブミッション(5c)**

ロン・ライブリー、M.Div.、M.A.による提供 – BiblicalMentoring.org(学問)

ステップ1:開会の祈り

ステップ2: 各人が記憶の節を引用します: ヴァース: **マルコによる福音書 10章45節**
45節「人の子でさえ、仕えるためではなく仕えるために来たのです。
そして多くの人々のために自らの命を身代金として捧げること。」

ステップ3: *聖書章の全部または一部を読んで議論してください* **– マルコ10章**

ステップ4: 個人申請やグループディスカッションのための質問:

一. フィリップスは、実際にはキリストの権威が彼と彼のスタッフに受け継がれていたと述べています。この状況が、彼らの指示にどのように影響したかを考えてみてください。

二. 召使いを通じて権威を行使するとはどういう意味でしょうか。

三. 著者の主張、キリストのメッセージは「霊的な愛は奉仕するもので、欲しない」という明確なものだったという点を説明してもらえますか?

四. 著者は「不信者は恐れ、誇り、忠誠心、金銭欲のために奉仕する」と書いています。弟子の動機は愛であるべきだと考えてみてください。

五. フィリップスは、私たちは四つの聖書の真理を理解し、それに従って生きなければならないと主張しています。それらを挙げられますか?

ステップ5: *本の内容を読んで議論してください:*

著者による第5c章 – キース・フィリップス:
これらの人々が私と私たちの牧会に対して権威を握ったとき、私は口頭で彼らへの服従を表明しました。キリスト者は自発的に指導者に服従しなければなりません。従わない者に対して指導者が権威を行使する聖書の規定はありません。だからこそ新約聖書はまず服従する責任を持つ者に語りかけ、次に権威を行使する者に語りかけています。まず子供たちに、次に親に、まず妻に、次に夫に;まず召使いに、そして主人に。したがって、私と理事会の関係は彼らへの服従に依存していました。私の服従は聖書を調べ、指導者を試す個人的な責任を排除するものではありません(使徒言行17:11)。しかし、私は従順な精神でこれを行い、そのような学びが受けた教えをさらに深めると信じています。もし問題で意見が分かれば、これらの敬虔な指導者たちは議論に前を向き、訂正や啓発を喜ぶと信じています。探求者としての私の精神は批判的でも反抗的でも不信でもありません。それは従順です。私は彼らを愛し、敬っています。そして逆もまた真実だと知っています。

私をよく知る敬虔な男性への服従は、大きな圧力を和らげてくれました。彼らの導きと知恵に基づき、私は今や私に服従することを選んだ人々に対して自信を持って権威を行使できるようになりました。その結果、指導的地位に任された多くのスタッフは、ゲットー内の他のスタッフやキリスト教徒に対しても権威を行使しています。キリストから委ねられた権威は実際に私たちに引き継がれています。この原則を行使することで、緊迫した状況でスタッフに方向性をもたらしました。私たちはしばしば食料を買うためにお金を求められました。私たちが渡したお金がしばしば酒や麻薬を購入していることに気づきました。そこで、空腹と言う人々にバランスの取れた食事を提供することに決めました。

理論上は良さそうに聞こえましたが、路上ではうまくいきませんでした。誰かに食べ物を勧められると、彼は「お金の方がいい。私を信じていないのか?」と答えました。どんなに思いやりを持って説明しても、口論や苦い感情が生まれました

。ついに私はスタッフに「上司はお金を渡せないと言っていますが、望むなら食べさせてあげます」と言ってもらうよう伝えました。驚くべきことに、それで私たちのジレンマは解決しました。お金を求める人々は、たとえその権威が誰なのか全く知らなくても、スタッフが服従する権威を尊重していました。彼らはその人とは議論することはできても、その権威には反論できません。弟子は喜んでキリストとその委任された権威に服従します。

弟子たちは奉仕を通じて権威を行使します

弟子は暴力や権威的な要求を用いるのではなく、しもべとして権威を行使します。イエスは弟子たちに言われました。「…異邦人の支配者として認められた者は彼らを支配し、彼らの偉大な者たちが彼らに対して権威を行使することを知っている。しかし、あなたがたの中ではそうではない…あなたがたの中で最初になりたい者はすべての奴隷となる。人の子でさえ仕えるために来たのではなく、仕え、多くの人のためにその命を贖いにしたのだ」(マルコ10:42-45)。キリストのメッセージは明白でした。霊的な愛は仕えるものであり、欲求しない。奉仕は最高の指導の形態です。成熟したクリスチャンはどんな状況でも主権よりも奉仕を選びます。これほど衝撃的な第一印象を与える者はごくわずかで、私は彼らに畏敬の念を抱かせます。ある日、そうした特別な人々には共通点があると気づきました。それは奉仕であることです。

ウォルターはその素晴らしい人の一人です。初めて会ったとき、彼は私を予約に連れて行くために予定を空けてくれと申し出てくれました。彼は私の健康を心から気遣ってくれました。彼が国内で最もトップクラスのビジネス経営者の一人だとは想像もしていませんでした。ウォルターは言わなくても、私に仕えるためにできることは何でもするでしょう。もし私が絶望的な状況にあったら、ためらわずに電話をかけるでしょう。ももべとしての心は彼の人生に染み渡っています。イエスは言われました。「これが私の戒めです。あなたがたは私があなたを愛したように互いに愛し合うこと」(ヨハネ15:12、斜体は付け加えています)。そしてキリストの弟子たちへの愛は、利他的奉仕でした。彼は自ら進んで奴隷の姿をとりました(ピリピ人への手紙2:7)。彼は彼らの足を洗い、自ら進んで十字架の上で代わりました。イエスは彼らが十字架にかけられるとき、叫んだり蹴ったりはしませんでした。彼は思いやりがあり、赦しに満ちていました。彼はためらうことなく仕え、そして「あなたがたに私と同じようにすべきだという模範を与えた」(ヨハネ13:15)と宣言しました。教会における権威は疑いようのない使徒たちであり、奉仕者でした。彼らは霊的な子供たちを「支配」したわけではありません(コリント人への第二の手紙1:24)。彼らは謙虚で愛情深い方法で権威を行使しました。恐れや誇り、忠誠心、金銭欲から仕える非信者とは異なり、弟子の動機は愛です。彼は兄弟の福祉を自分のものより優先します。プライバシーは稀な贅沢です。不便は珍しくありません。彼は気づかれずに奉仕し、興奮や悲劇のあまり感謝されずに去ることも多いです。横暴な言葉や行動は彼ららしくありません。私は黒板の台がない部屋でセミナーを教えたことを覚えています。ウィチタのディレクター、アル・エワートも一緒でした。静かに、まったく気づかれずに、アルは黒板の後ろに忍び込み、それを体に押し当てて立っていました。私は3時間にわたり弟子訓練について教えました――自死、服従、服従、愛、奉仕性。セッションが終わると、私はアルを見て深く感動しました。私はアルがそれを生きている間に、キリストのような人物について話していました。"…あなたがたの中で偉大になろうとする者は、あなたのしもべとなる」(マタイ20:26)。弟子はしもべとして権威を行使します。神が定められた服従と権威の関係は、キリストの教会の中心神経系として機能します。私たちは、喜びに満ちた服従の基盤となるこれら四つの聖書的真理を理解し、それに従って生きることで初めて、キリストの体の中で正しく機能することができます。

55-58ページ

弟子チェックリスト - 提出
___I主権者であり、愛に満ち、全知の神を信頼する内なる態度を持っています。
___Christの権威は私の人生において最高です。
神の委任された権威が私の人生に触れる___When、私はキリストに服するようにそれに服します。
___I権威を行使できるのは、私が権威に従うからです。
___I奉仕を通じて権威を行使します。

***ステップ6**：個人的な祈りの願いを共有し、それぞれがお互いの願いを祈ります。*

出典:キース・フィリップス博士著『The Making of a Disciple』。フレミング・H・レヴェル社出版、1981年。ISBN 0-8007-1181-5。ロバート・E・コールマンによる序文。内容(勉強問題を除く)は本書から抜粋し、修正は加えていない。

改訂20261011